

後藤昭二さん

1929(昭和4)年5月26日生まれ
当時の本籍地 山形県
海軍 水雷科水測術
戦艦「大和」
最終階級 兵長
坊の岬沖海戦



●1944(昭和19)年5月25日 横須賀海軍対潜学校入校 志願

●1945(昭和20)年4月 戦艦「大和」乗務員を命ぜられる

水測兵は15-16名。超音波を発信し、返ってくる音を聴音機で聞いて、敵の船舶の距離を推測、波や魚の音でゴ-ゴ-いっている音の中から他の音を聞き出す。音の種類とその確からしさの段階を判定して艦橋に伝える。耳がとても良くなければいけない。

●1945(昭和20)年4月6日 沖縄へ出勤

見張り員が、敵機が30-50機がきれいに編隊を組んで来たのを、「戦闘だ、敵機来襲だ」と戦闘ラッパを鳴らし、どンドンどンドン、どンドンどンドン。潜って音を聞く役だが甲板に出て砲術兵に弾薬を運ぶ。

第4回目でやられた。

100-200機ずつ30分おきずつに攻撃してくる。上からは機銃掃射、下からは魚雷もぶっ放してくる。上から下からでどこがどこなんだか滅茶苦茶になって、何が何だか夢中になってしまって、蜂の巣。段々左の方に傾いていった。

「頑張れ貴様、沈んだり、死んだりはない。これは不沈艦だから！」だけでも何連発も来た、どれだけ食べたか分からないんだ。上からグラマンが機銃をすれば上にいる人がバタバタ倒れるんだ。上と下からだからどうしようもなかった。

●総員退艦せよという命令が出た。対潜学校で「実施部隊に行つて船が沈む時には、丸裸になり、大事なものは腹に巻き、海に飛び込め」と班長がよく話してくれていた。

80m(巾)もあるものが“があ〜っ”と来たもんだから、甲板は血だらけでドロドロ、駆けようにも血の海。頭や身体がバーラバーラ、腸管・臓腑を取って口に入れて食べているのもいるし、首が飛んで身体がアップアップしてる、手は手首が飛んで骨はじゃかじゃか、肉はパラパラ、廻りにくっついている。死体はゴロゴロ。皆即死だった。人を避けて甲板を高い方にどンドン走っていく。

俺は絶対死なないぞ！という意気込みで“ばーん”と高いところから飛び込んだ。若いからね。

●「箸1本でもいいから、(つかまる)ものを探せ」と言われていた。ドラム缶や机や椅子は見つけたけれど、あまりそういう物には頼らず、自分は自分と考えた。

俺は死なないっ！という気持ち。

一生懸命泳ぎ100-200m離れたか？ 火柱がだあーと上がった。海で小さなタンクにすがり、洋上を1時間ほどさまよい、駆逐艦に救助される。2時間後、戦艦大和は爆発し撃沈。大和が回転して沈没する前に出られなかった兵は、船に巻き込まれて戦死した。

●1945(昭和20)年8月15日

舞鶴で全員集合で玉音放送を聞くが内容わからず兵舎はいつも通り。

●1945(昭和20)年9月1日 復員

600円を貰い、2日に鉄道で山形に帰郷した。



(取材日 2010年11月10日)